



東京新橋ロータリークラブ

TOKYO SHIMBASHI ROTARY CLUB

平成 23 年 9 月 27 日

ガバナー卓話

国際ロータリー第 2750 地区ガバナー
片倉 章雄 様

皆様こんにちは。今年度 RI 第 2750 地区ガバナーの片倉章雄です。所属は日本橋 RC である。東京新橋 RC からは地区のインターンシップ委員会で三ツ木さんに活躍いただいております。本日 10 時 20 分より小山会長、長野会長エレクト、今泉幹事と懇談し、クラブの活動方針、長期計画等について話を聞いた。新橋 RC は、むしろこちらが教えられることが多い、良い計画や方針を持っており感服した。

3 月 11 日の東日本大震災から半年が経過した。原発の事故や政治の混乱が起き、国難としか言いようのない状況が続いている。今般の大震災に対しては皆様から多くのご支援をいただき感謝している。当地区においては前年度に辰野ガバナーが大震災復興支援委員会を設けたが、今年度も市川パストガバナーを委員長とする復興支援地区委員会を立ち上げた。地区の皆様から頂いた義捐金は総額 1 億 1 千万円になったが、このうち日本ガバナー会に 8 千万円を拠出し、また岩手、宮城、福島に対し様々な支援物資を直接送った。全国の地区・世界中の RC から寄せられた義捐金の総額は、10 億 4 千万円になっている。ここから被災した 7 地区に 1 億 2 3 百万円の見舞金や支援物資を提供し、現在 8 億 7 千万円が残っている。昨年度のガバナー会はこの資金で遺児育英会を立ち上げようとしたが、今年度のガバナー会のメンバーの過半数が、この案に反対しており、むしろ今すぐに困っている被災地に対し支援すべきとなった。

そのため遺児育英会案に反対の地区は、拠出した義捐金を戻し入れてもらい、自分達で直接支援をしていくことにした。当地区はガバナー会から資金が

戻されると義捐金の残高は約 9 8 百万円となり、この資金を復興支援地区委員会で運用管理し、各クラブに有効に活用してもらうことにした。この資金を優先的に拠出する対象プログラムは、次のとおりである。



- ①被災地の支援要請の具体的意見を汲み取ったもの。
- ②現地における支援要請優先事項を実行に移すもの。
- ③復旧から復興に向けた支援活動を計画し、出来るだけ形があり、ある一定規模を有するもの。
- ④単に義捐金の拠出に留まらず、ロータリアンが被災地復興計画に参画しているもの。
- ⑤被災地域社会と連携して、拠出後のフォローが出来る計画であること、以上である。

地区委員会では義捐金活用情報を一元化し、地区内クラブの活動に役立つ組織運営を行なうことにしている。被災地の地域社会の復興の礎となるものに使っていくよう、検討と調整を重ねていきたいと考えている。

この後ガバナーは、「カルヤン・バネルジー会長の唱える今年度の RI テーマ『心の中を見つめよう 博愛を広げるために』について」、「地区の今年度強調事項・重点目標について」、「ロータリー財団への支援について」、「東日本震災復興基金の活用について」、「米山記念奨学会への支援について」、等のお話をされた。

そして最後に、厳しい一年になるかもしれないが、ひとりでも多くの人の笑顔を取り戻すために行動すべきであり、ロータリーの基本に立ち戻り頑張っていこうではないか。皆様のクラブが親睦と奉仕に汗をかき楽しく理想的なクラブとなるよう祈っている、と締めくくられた。